



# 児文研だより

令和4年 8月22日  
No. 3  
【下里（三田小）】

## 小教研大会 児童文化研究会 分科会発表

令和4年7月26日（水）、小教研大会の分科会発表が行われました。児童文化研究会は、川崎市立御幸小学校の教室から『学習から発表会へ～学習用穴あき台本を活用して～』というテーマで、オンラインでの発表を行いました。

### 《アイスブレイキング》（東菅小・池田靖教頭先生）

普通のジャンケンからはじまり、『後出しジャンケン』でリーダーに「勝つ・負ける」ようにして場が和んだ後、『アドジャンケン』をしました。グー・チョキ・パーの他に1本指・3本指・4本指も加えて、リーダーが出した指と自分が出した指の合計数を即座に声に出すというゲームです。画面越しではありましたが、こうした簡単なゲームを行うことで視聴している方々と一体感ができあがるのを感じました。他にも『あっち こっちホイ』や、自分の身近にある物（筆箱やノートなど）が話しているように『見立てる』活動を行いました。

### 《基調提案より》（上作延小・井上 茂洋先生）

児童文化研究会では、ここ数年の研究の重点の一つとして「教科や領域のねらいを達成するために、演劇的表現活動を取り入れた授業」について研究と実践を重ねてきています。その演劇的表現活動を学習に取り入れてきた成果として分かってきたのは、下記のことです。

- 楽しい表現活動が学習への意欲づけや興味づけとなり、授業が活性化するということ。
- 演劇的表現活動を行うことで、言葉や文章が理解しやすくなったり想像力が豊かになったりすること。
- この過程を経ることで、子どもたちが授業のねらいや目標を達成しやすくなること。
- 友達と工夫して創り上げる表現活動が、主体的に活動する力や人と関わる力を培うこと。

子どもたちは、日々の学習の中で多くの知識や思考を積み重ねていますが、その知識や思考を自分で再構成し、他者に対して表現していく活動が大切です。その手法の一つが穴あき台本を使った学習活動、「ちょこっとシアター」です。

### 《授業実践報告より》（高津小・千ヶ崎 颯子先生）

4年生社会科「水はどこから」の単元で、穴あき台本を活用して学習を進めていきました。「ちょこっとシアター」は、大きく分けると4つのステップに分かれています。①単元を通した課題をもたせる場面 ②子どもたちが知識や思考を獲得する場面 ③それぞれが獲得した知識や思考を他者に紹介するための台本にしていく場面 ④それぞれのグループの発表を交流する場面

子どもたちは、話し合いの中でときに自分と同じ考えと出会い思考が強化されたり、異なる意見に出会うことで思考に広がりや生まれたりしていきました。穴あき台本は、考えさせたいこと、深めさせたいことを穴あきにして、子どもたちがせりふとして書き込んでいきます。グループでまとまった知識を再構成し、アウトプットしていく作業を繰り返すことで、知識や考えが定着し共有化することができました。

### 《学習から発表会へ》（東菅小・池田 靖先生）

穴あき台本を使った子どもたちの学習活動をつなぎ合わせることで、発表会へと発展することができます。授業報告の中で出てきた子どもたちの発表映像と、児童文化の常任委員がつなぎの部分演技したものに合わせて動画見本を作り、ご視聴いただきました。子どもたちの学習がそのまま生かされ、更に他者を意識した発表会へと表現を広げられる方法として、お伝えすることができました。

# 児童文化研究会 夏期研修会

令和4年8月1日(月)下布田小学校にて、夏期研修会を行いました。午前中のみで開催でしたが、48名の方が参加していただき、密を避けても大盛況でした。活動の様子を報告いたします。

## 〈低学年部会〉

国語「のはらうた」の詩を題材に、穴あき台本を使って劇づくりを行いました。まず、3つの詩と物語を進行するグループの合計4グループに分けられました。詩のグループは野原の生き物になりきって、体を使ったり、身近な楽器を使ったりしながら詩の朗読を行いました。物語を進行するグループは野原を探検する少年役となりました。繋げると簡単に一つのストーリーが完成し、短時間で楽しい発表会を行うことができました。参加された先生方からもたくさんの笑顔があふれていました。



## 〈高学年部会〉

社会科4年「水害にそなえるまちづくり」を題材に、穴あき台本を使って劇作りにチャレンジしました。「ニュース番組形式」「インタビュー形式」の2つの表現方法で、まずは4人で相談。「一番伝えたいことは何だろう」「効果的に伝えるには？」などじっくり考えました。実際に演じることで、災害時の様子、避難者の気持ち、消防隊や自衛隊の方の思いを実感できたようでした。発表を行って、「子どもの気持ちがよくわかる」「タイミングが合うと気持ちいい」といった声が聞かれました。

## 〈エピローグ・相談コーナー〉

エピローグでは、司会のパペットが進行する中、低学年・高学年の発表交流をして、お互いの活動を報告し合いました。終了後の相談コーナーでは、A学芸大会 B学習発表会 C日常の表現活動 D特別支援級の4つのブースに分かれ、参加者の皆さんがご自分のニーズに沿って相談をする時間となりました。

## 〈参加者の声〉

- ・3年ぶりの夏期研待ってました！半日だけでしたが、開催されたことがとても嬉しく、今回もたくさん学びがありました。
- ・話し合いの時間より、実際に立って声を出してみると自然と進んでいくことを実感できました。
- ・「はずかしいからやりたくない」のではなく、「はずかしいけれどやってみたい」という子どもはたくさんいると感じています。まずは教師がお手本になって、演じることの楽しさと解放感を表現していきたいと思います。
- ・アイスブレイキング、穴あき台本のどちらも根底には「楽しい！」があり、子どもたちの意欲や学びの深まりにつながっていくのだと感じられました。
- ・「知識も思い出に残るように」との思いに触れ、実践してみたいと思いました。
  - ・参加者の皆様、ありがとうございました。



## 《次回のお知らせ》

9月7日(水)学芸大会担当者会 川崎区(向小)・高津区(高津小)・多摩区(下布田小)

12月の学芸大会に向けて、準備を進めます。何かありましたら研究会までお知らせください。

<文責 東生田小 森>